

令和5年度

新課程

2学年

シラバス

令和5年度 シラバス

学年	クラス		教科(科目)	単位数				
2年文系	1組・2組・3組(文系)		地理歴史(地理総合)	2				
教科書			副教材					
地理総合(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)			新編地理資料2023(とうほう)					
学習の目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
評価の方法		①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度				
		知識:地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。				
学習計画及び学習の評価								
学期	月	時数	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
						①	②	③
1 学 期	4	10	地図とGISの活用	1 球面上の世界 2 世界からみた日本の位置と領域 3 国内や国家間の結びつき 4 暮らしのなかの地図とGIS	・地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。 ・グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。 ・交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身に付ける。 ・GISが日常生活にも利用されている実例を捉え、大量の地理情報を処理できるGISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。	○	○	○
	5			20	地理的環境の特色	1 地形と生活文化 2 気候と生活文化 3 産業と生活文化 4 宗教・言語と生活文化	・世界の大地形の変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震・火山について理解する。 ・世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などが生活文化に影響を与えていることを理解する。 ・各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつか、どのような生活の工夫があるのか、資料から考える。 ・産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。	○
	7	10	世界各地の生活文化			1 東アジア 2 ASEAN諸国 3 南アジア 4 イスラーム圏 5 EUと周辺諸国 6 アフリカ 7 ロシア 8 アメリカ・カナダ 9 ラテンアメリカ 10 オセアニア	・社会経済システムの変化に焦点を当て、東アジアの特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。 ・各文化圏における生活文化の多様性や経済発展を遂げるASEAN諸国の現状と課題について考える。 ・イスラーム圏の気候条件、宗派の違い、エネルギー資源の有無などを基盤とした経済水準の違いについて理解する。 ・経済成長や開発の進むアフリカの課題を自然環境と生活文化の関わりから考える。 ・アメリカ合衆国の多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。 ・これからのヨーロッパのよりよい社会を目指して課題について考える。 ・ラテンアメリカの鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の解決に向けた取り組みを考える。 ・オセアニアの生活文化の歴史的背景や現状と将来について、多文化社会と関連づけて考える。	○
8	9	15	地球的課題と国際協力	1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口・食料問題 4 居住・都市問題	・深刻な地球環境問題について事例をあげて捉え、それぞれの解決の取り組みについて考える。 ・エネルギー資源の変化を捉えながら、これらの解決のための取り組みをSDGsと関連づけて考える。 ・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。	○	○	○
10	15	15	生活圏の諸課題	1 日本の自然環境と防災 2 生活圏の諸課題と地域調査	・日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 ・日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。	○	○	○
3 学 期	1							
	2							
	3							

令和5年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数					
2年理系	3組(理系)・4組・5組・6組	地理歴史(地理総合)	2					
教科書		副教材						
地理総合(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)		新編地理資料2023(とうほう)						
学習の目標 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。								
評価の方法								
①知識・技能		② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度					
知識:地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。					
学習計画及び学習の評価								
学期	月	時数	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
						①	②	③
1 学期	4 5	10	地図とGISの活用	1 球面上の世界	<ul style="list-style-type: none"> 地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。 グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。 交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身に付ける。 GISが日常生活にも利用されている実例を捉え、大量の地理情報を処理できるGISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。 	○	○	○
				2 世界からみた日本の位置と領域		○	○	○
				3 国内や国家間の結びつき		○	○	○
				4 暮らしのなかの地図とGIS		○	○	○
	6 7 8	20	地理的環境の特色	1 地形と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> 世界の大地形の変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震・火山について理解する。 世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などが生活文化に影響を与えていることを理解する。 各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつか、どのような生活の工夫があるのか、資料から考える。 産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。 	○	○	○
				2 気候と生活文化		○	○	○
				3 産業と生活文化		○	○	○
				4 宗教・言語と生活文化		○	○	○
2 学期	9 10 11 12	10	世界各地の生活文化	1 東アジア	<ul style="list-style-type: none"> 社会経済システムの変化に焦点を当て、東アジアの特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。 各文化圏における生活文化の多様性や経済発展を遂げるASEAN諸国の現状と課題について考える。 イスラーム圏の気候条件、宗派の違い、エネルギー資源の有無などを基盤とした経済水準の違いについて理解する。 経済成長や開発の進むアフリカの課題を自然環境と生活文化の関わりから考える。 アメリカ合衆国の多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。 これからのヨーロッパのよりよい社会を目指して課題について考える。 ラテンアメリカの鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の解決に向けた取り組みを考える。 オセアニアの生活文化の歴史的背景や現状と将来について、多文化社会と関連づけて考える。 	○	○	○
				2 ASEAN諸国		○	○	○
				3 南アジア		○	○	○
				4 イスラーム圏		○	○	○
				5 EUと周辺諸国		○	○	○
				6 アフリカ		○	○	○
7 ロシア				○		○	○	
8 アメリカ・カナダ				○		○	○	
9 ラテンアメリカ				○		○	○	
10 オセアニア				○		○	○	
3 学期	1 2 3	15	地球環境問題 資源・エネルギー問題 人口・食料問題 居住・都市問題	1 地球環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 深刻な地球環境問題について事例をあげて捉え、それぞれの解決の取り組みについて考える。 エネルギー資源の変化を捉えながら、これらの解決のための取り組みをSDGsと関連づけて考える。 持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。 世界では都市に人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえて理解する。 	○	○	○
				2 資源・エネルギー問題		○	○	○
				3 人口・食料問題		○	○	○
				4 居住・都市問題		○	○	○
3 学期	2 3	15	生活圏の諸課題	1 日本の自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> 日本の様々な自然災害が起きていることを理解するため災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、などを利用する技能とともに捉える。 日本が抱える地域的な課題について人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や調査の技能を身に付ける。 	○	○	○
				2 生活圏の諸課題と地域調査		○	○	○
						○	○	○

令和5年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数				
2年	1~6	公民(公共)	2				
教科書		副教材					
詳述公共		最新図説公共					
学習の目標	1 社会的な事象に関する知識を身につけ、現代社会の様々な問題について理解を深める 2 人間としての在り方生き方について考える力を身につけさせる 3 良識ある公民として必要な能力と態度を育てる						
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度				
	・現代社会の基本的な問題と人間としての在り方生き方に関わる事柄や学び方を理解し、その知識を身につけている。	・現代社会の課題を見つけ、社会的事象を広い角度から考察し、社会の変化や様々な考え方をふまえて、公正に判断する。 ・資料や統計を収集し、その情報を主体的に選択して活用するとともに、追求し考察した過程や結果を様々な方法で表現する。	・現代社会の基本的問題事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追求する。また、社会的事象を総合的に考え、人間としての在り方・生き方を主体的に考えようとする。				
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち	1.生涯における青年期の意義 2.青年期と自己形成の課題 3.職業生活と社会参加 4.現代社会と青年の生き方	・伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。	○	○	○
	5	第2章 人間としてよく生きる	1.ギリシアの思想 2.宗教の教え 3.人間の尊重 4.人間の自由と尊厳 5.個人と社会 6.主体性の確立 7.他者の尊重 8.公正な社会	・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自ら他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
	6	第3章 民主社会の倫理	1.人間の尊厳と平等 2.自由・権利と責任・義務	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、公共的な空間における基本的な原理について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○
	7	第4章 民主国家における基本原理 第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格	1.人権保障の発展と民主政治の成立 2.国民主権と民主政治の発展 1.日本国憲法の成立 2.平和主義とわが国の安全 3.基本的人権の保障 4.人権の広がり	・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 ・憲法の下、適正な手続きに則り、法や基本に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停・解決することなどを通して権利や自由が保障、実現され、社会秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	○	○	○
第2学期	9	第2章 日本の政治機構と政治参加	1.政治機構と国民生活 2.人権保障と裁判所 3.地方自治 4.選挙と政党 5.政治参加と世論	・政治参加と公正な世論形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。	○	○	○
	10	第3章 現代の経済社会	1.経済社会の形成と変容 2.市場のしくみ 3.現代の企業 4.経済成長と景気変動 5.金融機関の働きと財政・租税	・財政や租税の役割、市場の機能と限界、金融の働きなど現実社会の事柄や課題を基に、自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府が担っていることについて理解している。	○	○	○
	11	第4章 経済活動のあり方と国民意識	1.日本経済の歩みと近年の課題 2.中小企業と農業 3.公害防止と環境保全 4.消費者問題 5.労働問題と雇用 6.社会保障	・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、多様な契約及び消費者の権利と責任、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○
第3学期	1	第5章 国際政治の動向と課題	1.国際社会における政治と法 2.国家安全保障と国際連合 3.冷戦終結後の国際政治 4.軍備競争と軍備縮小 5.異なる人種・民族との共存 6.国際平和と日本	・相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や、戦後の国際政治の動向を概観し、現代の地域紛争、人権問題、軍縮問題等を理解している。	○	○	○
	2	第6章 国際経済の動向と課題	1.国際経済のしくみ 2.国際経済体制の変化 3.経済のグローバル化と金融危機 4.地域経済統合と新興国 5.ODAと経済協力	・経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなど、世界経済がより緊密に結び付き、一国の経済政策や経済活動が他国に影響を与えることを理解しており、その中における我が国の役割について主体的に考察している。	○	○	○
	3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		・持続可能な社会づくりについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○

令和5年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数				
2年文系	1~3(文系)	理科(化学基礎)	2				
教科書		副教材					
化学基礎(数研出版)		リードα化学基礎(数研出版) 化学実験テキスト(富山県理化学会)					
学習の目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 1 化学の学習を通し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。						
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度				
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	序章 化学と人間生活 第1部 物質の構成	第1章 物質の構成	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要なものをつくり出す過程で、化学が芽生え、発展してきたことに気づかせる。 生活を支える金属の大部分が、鉱石の化学変化でつくられていることに気づかせる。 混合物と純物質の特徴を説明し、混合物を純物質に分離する方法がわかる。 原子の構造を説明し、同位体・放射性同位体の意味がわかる。 元素の周期律、周期表を学習し、原子の電子配置や価電子の意味がわかる。 イオンの生成とエネルギーの関係や組成式、イオン結晶の意味がわかる。 分子の形成や共有結合の意味がわかる。 金属結合を学習し、金属の特徴がわかる。 	○	○	○
			1 純物質と混合物				
			2 物質とその成分				
	5	第2章 物質の構成粒子	3 粒子の熱運動と物質の三態				
1 原子の構造と電子配置							
6	第3章 化学結合	2 イオン	<ul style="list-style-type: none"> 原子量の概念を理解させ、分子量・式量の扱いを学習する。 物質量の考え方(アボガドロ数、物質の質量や体積等と物質量の関係)を理解できる。 	○	○	○	
		3 元素の周期律					
		1 イオン結合					
第2部 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式	第2章 酸と塩基	2 共有結合	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の定義、電離度などが理解できる。 水素イオン濃度やpHに関する内容が理解できる。 中和反応における量的関係がわかる。 	○	○	○	
		3 金属結合					
		4 物質の分類と融点					
第2学期	9	第3章 酸化還元反応	1 酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> 酸化・還元の意味がわかる。 	○	○	○
			2 物質量(mol)				
第3学期	1	2 酸化剤と還元剤	3 酸化還元反応と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> 酸化還元反応式をつくり方を理解し、酸化還元滴定の意味がわかる。 金属のイオン化傾向を学習し、金属の反応性の違いが理解できる。 酸化還元反応を利用する金属の製錬や電池のしくみがわかる。 	○	○	○
			1 酸化還元反応				
			2				

令和5年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数				
2年理系	3(理系)~6	理科(化学基礎)	2				
教科書		副教材					
化学基礎(数研出版)		リードα化学基礎(数研出版) 化学実験テキスト(富山県理化学会)					
学習の目標	<p>化学的な事象・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 化学の学習を通し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。 						
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度				
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	序章 化学と人間生活 第1部 物質の構成	第1章 物質の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要なものをつくり出す過程で、化学が芽生え、発展してきたことに気づかせる。 ・生活を支える金属の大部分が、鉱石の化学変化でつくられていることに気づかせる。 	○		○
			1 純物質と混合物 2 物質とその成分 3 粒子の熱運動と物質の三態				
	5	第2章 物質の構成粒子	1 原子の構造と電子配置 2 イオン 3 元素の周期律	<ul style="list-style-type: none"> ・混合物と純物質の特徴を説明し、混合物を純物質に分離する方法がわかる。 ・原子の構造を説明し、同位体・放射性同位体の意味がわかる。 ・元素の周期律、周期表を学習し、原子の電子配置や価電子の意味がわかる。 	○	○	
			第3章 化学結合	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンの生成とエネルギーの関係や組成式、イオン結晶の意味がわかる。 ・分子の形成や共有結合の意味がわかる。 ・金属結合を学習し、金属の特徴がわかる。 	○		○
	6	第2部 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質質量(mol) 3 化学変化の量的関係	<ul style="list-style-type: none"> ・原子量の概念を理解させ、分子量・式量の扱いを学習する。 ・物質質量の考え方(アボガドロ数、物質の質量や体積等と物質質量の関係)を理解できる。 	○	○	
			第2章 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の定義、電離度などが理解できる。 ・水素イオン濃度やpHに関する内容が理解できる。 ・中和反応における量的関係がわかる。 	○		○
第2学期	9	第3章 酸化還元反応	1 酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化・還元の意味がわかる。 	○	○	
			2 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応式のつくり方を理解し、酸化還元滴定の意味がわかる。 ・金属のイオン化傾向を学習し、金属の反応性の違いが理解できる。 	○	○	
			3 酸化還元反応と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応を利用する金属の製錬や電池のしくみがわかる。 	○	○	○
第3学期							

令和5年度 シラバス

学年	ク ラ ス	教 科 (科 目)	単位数
2年 男子	1～6	体育	2
教科書		副教材	
現代高等保健体育(大修館書店)		ステップアップ高校スポーツ2022(大修館書店)	
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。 		
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。 ・実技テスト・知識テストなど	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。 ・レポート・グループ活動の発言	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 学習状況(意欲、態度、グループ活動等)の観察

学習計画及び評価方法

学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法				
					①	②	③		
第1学期	4	体づくり運動	集団行動 体力テスト	体づくり運動 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 陸上競技 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡いで次走者のスピードを十分高めることができる。 ・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。	○	○	○		
	5			陸上競技	短距離走 リレー 長距離走	球技 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。	○	○	○
	6	球技	サッカー			○	○	○	
	7	体育理論	運動・スポーツの学び方	○	○	○			
第2学期	9	1単位	1単位	1単位	1単位	武道 ・伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解している。 ・柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる。 ・剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすることができる。 器械運動 ・技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 体育理論 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	○	○	○
	10	球技	武道	サッカー	選択 (柔道 剣道)				
				球技選択 (ソフトボール テニス)					
	11	器械運動		マット運動					
	12	体育理論	運動・スポーツの学び方						
第3学期	1	球技	球技選択 (バドミントン 卓球)		○	○	○		
	2		バスケットボール		○	○	○		
	3	体育理論	運動・スポーツの学び方	○	○	○			

令和5年度 シラバス

学年	ク ラ ス	教 科 (科 目)	単位数
2年 女子	1～6	体育	2
教科書		副 教 材	
現代高等保健体育(大修館書店)		ステップアップ高校スポーツ2022(大修館書店)	
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。 		
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。 ・実技テスト・知識テストなど	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。 ・課題レポート・グループ活動の発言	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。 学習状況(意欲、態度、グループ活動等)の観察

学習計画及び評価方法

学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法				
					①	②	③		
第1学期	4	体づくり運動	集団行動 体力テストなど	体づくり運動 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 陸上競技 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めることができる。 ・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。	○	○	○		
	5	陸上競技	短距離走 リレー	球技 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。	○	○	○		
	6		長距離走		○	○	○		
	7	器械運動	マット運動	○	○	○			
7	体育理論	運動・スポーツの学び方		○	○	○			
第2学期	9	1単位	1単位	1単位	1単位	ダンス ・ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ・創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。 器械運動 ・技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。	○	○	○
	10	球技	球技選択 (サッカー ラグビー)	創作ダンス	○				
	11	ダンス	創作ダンス	○					
	12	体育理論	運動・スポーツの学び方	○					
第3学期	1	球技	バスケットボール	○	○	○			
	2		球技選択 (バドミントン 卓球)	○	○	○			
	3	体育理論	運動・スポーツの学び方	○	○	○			

令和5年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数				
2	1~6	保健	1				
教科書		副教材					
現代高等保健(大修館書店)		図説現代高等保健(大修館書店) 現代高等保健体育ノート(大修館書店)					
学習の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
評価の方法	①知識・技能 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。 ・定期考査、知識小テスト	② 思考・判断・表現 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。 ・定期考査、課題レポート、ノート内容	③ 主体的に学習に取り組む態度 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。 ・学習状況(意欲、態度、グループ活動等)の観察、ノート内容				
学習計画及び評価方法							
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	生涯を通じる健康	ライフステージと健康	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。	○	○	○
			思春期と健康	・思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ・思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる。	○	○	○
			性意識と性行動の選択	・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。	○	○	○
	5		妊娠・出産と健康	・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・妊娠・出産時に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。	○	○	○
			避妊法と人工妊娠中絶	・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	○	○	○
	6		結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。	○	○	○
			7	中高年期と健康	・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。	○	○
第2学期	9	健康を支える環境づくり	働くことと健康	・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。	○	○	○
			労働災害と健康	・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。	○	○	○
	10		健康的な職業生活	・職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 ・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。	○	○	○
			大気汚染と健康	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。	○	○	○
	11		水質汚濁、土壌汚染と健康	・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。	○	○	○
			環境と健康にかかわる対策	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 ・産業廃棄物の処理について説明できる。	○	○	○
			ごみの処理と上下水道の整備	・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。	○	○	○
第3学期	12	食品の安全性	・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。	○	○	○	
		食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。	○	○	○	
	1	保健サービスとその活用	・保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ・保健サービスの活用の例をあげることができる。	○	○	○	
		医療サービスとその活用	・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。	○	○	○	
		2	医療品の制度とその活用	・医薬品の正しい使用方法について説明できる。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。	○	○	○
3	さまざまな保健活動や社会的対策	・健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。	○	○	○		

令和5年度 シラバス

学年	クラス	教科(科目)	単位数					
2	1~6	情報(情報I)	2					
教科書		副教材						
実教出版「高校情報I Python」		高校情報I Python学習ノート						
学習の目標		<p>効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め、その技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深める。</p> <p>様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための態度を養うとともにその資質・能力の育成を目指す。</p>						
評価の方法		<p>① 知識・技能</p> <p>情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付ける。</p>	<p>② 思考・判断・表現</p> <p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに、問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p>	<p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>				
学習計画及び評価方法								
学期	月	時数	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
						①	②	③
第1学期	4	6	第1章 情報社会	<p>01 情報と情報社会</p> <p>02 問題解決の考え方</p> <p>03 法規による安全対策</p> <p>04 個人情報とその扱い</p> <p>05 知的財産権の概要と産業財産権</p> <p>06 著作権</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報とメディアの定義や特性、分類について理解する。 問題解決の意味、考え方、手順、手法について理解する。 情報セキュリティについてや法規による安全対策、情報漏洩とその対策について理解する。 個人情報やプライバシーの概念、関連法規についてや、知的財産権の分類、産業財産権や著作権の構成を理解する。 	○	○	○
	5	6	第2章 情報デザイン	<p>07 コミュニケーションとメディア</p> <p>08 情報デザインと表現の工夫</p> <p>09 Webページと情報デザイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの形態や手段の特性、メディアリテラシーの考え方や情報の信憑性について理解する。 情報をわかりやすく伝達するために工夫しようとしている。 Webサイトの設計や構成について理解し意欲的にHTML記述によるWebページ制作に取り組んでいる。 	○	○	○
	6	8	第3章 デジタル	<p>10 デジタル情報の特徴</p> <p>11 数値と文字の表現</p> <p>12 演算の仕組み</p> <p>13 音の表現</p> <p>14 画像の表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> アナログ、デジタル、デジタルデータの特徴や情報量およびその単位について理解する。 2進数、10進数、16進数について理解し、文字と文字コードの関係などにより目的に応じて適切に表現できる。 2進数の簡単な加算と減算、補数を使った減算を理解する。 基本論理回路を理解し、真理値表を適切に表現できる。 音および画像のデジタル化の仕組みについて理解する。 	○	○	○
	7	6		<p>15 コンピュータの構成と動作</p> <p>16 コンピュータの性能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ハードウェアとソフトウェア、オペレーティングシステムの機能について理解する。 クロック周波数やコンピュータの演算誤差について理解する。 	○	○	○
	9	8	第4章 ネットワーク	<p>17 ネットワークとプロトコル</p> <p>18 インターネットの仕組み</p> <p>19 Webページの閲覧とメールの送受信</p> <p>20 情報システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> LANとWAN、集中処理システムと分散処理システム、サーバーの利用について理解する。 IPアドレス、ドメイン名、名前解決について理解する。 Webページの閲覧の仕組み、電子メールの送受信の仕組みについて理解する。 身の回りの情報システムについて興味、関心を示している。 	○	○	○
第2学期	10	6		<p>21 情報システムを支えるデータベース</p> <p>22 データベースの仕組み</p> <p>23 個人による安全対策</p> <p>24 安全のための情報技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> データベースの役割やその活用について理解する。 リレーショナルデータベースの特徴や操作について理解する。 パスワード管理、マルウェア対策、不正アクセス対策について理解する。 フィルタリングや電子すかし、パリティビット、暗号化、デジタル署名について理解する。 	○	○	○
	11	6	第5章 問題解決	<p>25 データの収集と整理</p> <p>26 ソフトウェアを利用したデータの処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> 収集した数値、文字、画像等、それぞれのデータの整理方法について理解する。 表計算ソフトウェアの関数の利用、データの並べ替え、抽出、データの可視化などの操作方法について理解する。 	○	○	○
	12	6		<p>27 統計量とデータの尺度</p> <p>28 時系列分析と回帰分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアを使って、統計量を計算することができる。 ヒストグラムや箱ひげ図によるデータ分析方法を理解する。 量的データと質的データの違いについて理解する。 表計算ソフトウェアを使って移動平均を計算したり、回帰分析や相関係数を求めることができる。また、グラフ表示もできる。 	○	○	○
	1	6		<p>29 モデル化とシミュレーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> モデル化の目的や手順、モデルの分類方法について理解し、簡単な確率的モデルや確率的モデルのモデル化やシミュレーションを行い、その結果から考察できる。 	○	○	○
第3学期	2	8	第6章 プログラミング	<p>30 アルゴリズムとプログラミング</p> <p>31 プログラミングの基本</p> <p>32 配列</p> <p>33 関数</p> <p>34 探索のプログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> アルゴリズムをフローチャートで表現することができる。 プログラムの基本構造を理解し、演算子や変数を使用するなどプログラム作成上の基本ルールを理解する。 配列の仕組みや一次元配列、二次元配列を理解する。 関数の定義と呼び出す方法、グローバル変数とローカル変数について理解する。 	○	○	○
	3	4		<p>35 整列のプログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> 線形探索と二分探索のアルゴリズムについて理解し、探索プログラムの作成に意欲的に取り組んでいる。 交換法と選択法による整列のアルゴリズムを理解し、整列プログラムの作成に意欲的に取り組んでいる。 	○	○	○